

## 会 議 録

会 議 名 ( 付 属 機 関 等 名 )	川西市環境審議会		
事 務 局	美化環境部 美化環境室 環境創造課 内線(2930)		
開 催 日 時	平成28年7月25日(月)14時00分～16時00分		
開 催 場 所	川西市役所 4階 庁議室		
出 席 者	委 員	木下委員(会長)・武田委員・西村委員・横谷委員・加藤委員・ 豊福委員・津田委員・中野委員・中本委員・木原委員・信田委員	
	事 務 局	美化環境部長 : 米田 勝也 美化環境室長 : 新田 稔 環境創造課長 : 西田 啓治 環境創造課主査 : 柳本 一志 環境創造課 : 八尾 増美	
傍 聴 の 可 否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍 聴 者 数	1人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第	【議 事】 川西市環境基本計画の改定について 【そ の 他】		
会 議 結 果	詳細は審議経過のとおり		

## 審 議 経 過

会長	本日は、第2次環境基本計画の素案の1章から3章を中心に議論を行いたいと思う。各委員がそれぞれ特に気になっている項目について、注目し、議論を進めていく形式にしたい。
委員	<p>p1の見出しは、「環境問題の動向」ではなく、「環境施策の動向」ではないか。加えて、p2とp3の図が小さくて見えないため、体裁を変更したほうが良いのではないか。</p> <p>p13のごみのリサイクル率について、川西市はずっと低下しているという図があるが、川西市では(ごみの排出に関して)厳しくなっているはずなのに、なぜリサイクル率が低下しているのか。これはごみ処理基本計画でも詳細に議論がなされてるかとは思いますが、このように「率」を求める場合は、分母と分子の関係が影響するため、ここは「人口の変化」というような「前提」をしっかりと記述したほうがよい。また、「率」の議論では、「減少」ではなく、「低下」と表現すべき。</p>
委託業者	社会的状況の変化というものに関して、どのように記述するかを再度検討する。
事務局	ごみ関係の業務は美化推進課という課が担当している。リサイクル率の減少している理由については調査しておく。
委員	大切なことだと思うので、調べておいてほしい。資料のほかの場所に「リサイクル量が減っているからリサイクル率が減っている」というようなことが記述されているが、それはおかしいと感じる。
委員	「再生可能エネルギー」という言葉と「新エネルギー」という言葉が両方使われている。区別はどのようになっているのか。
委託業者	本来は「再生可能エネルギー」と記述すべきところであるので、統一する。
委員	資料2のp11で写真がまだ掲載されていない箇所の「北ひばりが丘公園」というのは宝塚域ではないのか。
事務局	市内にある公園である。
会長	表が多く、すべて表に頼っている印象を受ける。各項目の冒頭にイントロダクション等がなく、唐突に表が出てきている印象をうける。具体的には、p6では現況と課題の冒頭では、何を使ってこのような整理になったか、文章があればわかりやすい。
委員	リサイクルの話に戻るが、リサイクル率が低下した要因として、ごみの中に紙が多いこと、新聞を取る家庭の減少、古紙の集団回収が減っていることなどがある。そのことから、リサイクル率の分子が減ってきていることが要因にある。
委員	ではなぜH21をピークに(リサイクル率が)低下しているのか。

委員	他の阪神地域もだいたいこのような傾向である。
事務局	H21 にリサイクル率が多くなっているのは、国崎クリーンセンターが新しく稼働し、その際に分別区分の見直しがされたからである。
委員	p23 の環境配慮指針で「ごみを減らす」だけでは言葉不足。ごみとして廃棄するものを減らす、というリデュースのニュアンスで書くのが良い。リユース、リサイクルの概念が混在しているのでわかりやすく書くこと。 また、「ごみ」が平仮名とカタカナが混在している。平仮名で統一すること。
委員	p22 に各主体の役割が図として記載されているが、本計画では市民の役割はどの程度のものになる予定なのか。
委託業者	この図は環境に対する「責任者」を明確にしたいのではなく、みなで協働していくということを示している。どの役割の人が、どれだけのことを行うかということを示していない。
委員	また、市民の役割として、「市及び事業者と協働して地球環境の保全のための活動に取り組むように努める（環境基本条例）」とあるが、かなり負担が重いことが書かれているように感じる。また、市民がそれを認識しているか疑問。市が提案し市民を巻き込んでいく姿勢を示す方がよいのでは。
事務局	言いきり表現になっているところは再度表現を検討する。市民の役割として環境基本条例第 5 条が記載されているが、あくまでも目標像であり、実質的な取り組みなどについては、実践計画を策定し、各主体との協働を図っていく。
委員	全体的な内容に対する質問だが、今回の事業計画は予算がないと行動に移せないと考えている。従来の予算がどれほどで、今回の予算がどれほどなのか、現時点で分かっているところまで教えてほしい。
事務局	現在ははっきりと決まっている案はない。ただし、10 年間、この計画を実行する上で必要であるものに関しては、単年度ごとに見直しを行い、予算を組んでいくつもりだ。 現時点で、はっきりと、どのような予算を組むかという具体的なことは決まっていない。
委員	要望だが、環境に対する市民のみんなへの意識の向上のために、予算をしっかりと、行政がリーダーシップをとり、先駆的な提案をしてほしい。
委員	p5 関連計画との整合とあるが、本計画は関連計画で書かれたものをまとめたものなのか。
委託業者	施策に関しては、総合計画で書かれているなかから、環境関連のものを引用してきたものである。他の個別計画のあるものは、本計画で施策の方向性を示すこととしている。個別計画のない地球温暖化対策などについては本計画のみで施策を述べている。

	<p>たとえば、市域に係る地球温暖化対策計画は中核市以上に策定義務があり、本市で策定するかどうかは未定。</p> <p>本計画は必要に応じていつでも見直しできるように計画期間を設定している。</p>
事務局	<p>地球温暖化計画は、環境率先行動計画というものがあり、川西市自体が一事業者として温暖化対策をするというものはあるが、市全体としての計画はない。市民や事業者に向けた計画は今のところない。今回の環境基本計画がそれに該当するものだと考えている。</p> <p>今後は市民に向けた温暖化計画というものも必要になると思う。そういう動きも必要になると考えているが、現在のところ、具体的にいつ策定するか等は決まっていない。</p>
委員	<p>この計画は10年間である。この期間に地球温暖化を提言しないというのはいかがなものかと思う。なぜ入れないのか。</p>
事務局	<p>現在4pに出ているものは、現在の計画を掲載している。今後策定する計画も載せたほうがいいのかという意見なのか。</p>
会長	<p>阪神間の近隣都市は温暖化について記載している都市はあるのか。</p>
委託業者	<p>個別計画として策定している都市がどこかというのは把握していない。豊中などでは中核市のため、策定していたと思う。</p>
委員	<p>詳細な施策を検討してほしい。</p>
事務局	<p>この計画は適切な時期に見直しができるよう、進めていこうと思う。計画実行中にも検討の場を設け、その中で少しずつ進めていけたらと考えている。</p>
委員	<p>資料2 14pの課題の「温室効果ガスの影響は民生部門が大きい」という記述があるが、難しい表現のように思う。別の表現をつけることはできないか。</p>
委託業者	<p>身近な言葉に置き換えるようにする。</p>
委員	<p>15pの表・グラフ・写真との因果関係についてだが、このページの棒グラフと、他ページのグラフとを見比べると、学校現場の先生への情報が少ないということが読み取れる。そのあたりの事情を文章表現にしたほうが、グラフの意味が読み取りやすいと思う。</p>
委員	<p>27pの「住環境を守るために」という表について、「不適切な野焼きをしない」という記述があるが、「不適切な」というあいまいな表現は避けるべきではないか。</p>
委託業者	<p>野焼きすべてが禁止されているわけではなく、野焼きには「適切な」と「不適切なものがある。「不適切」の内容をここに記述するととても長くなってしまふ。</p>
委員	<p>例として、農業に従事する方の野焼きは認められているのは認識している。一方、個人として家庭菜園のような畑から出たものを焼くことは不適切であると認識している。</p>
委託業者	<p>その認識の通りだ。</p>

委員	野焼きの適切かどうかを決めるのは何なのか。面積であったりするのか。
事務局	農家が行う、農業に伴う焼却は認められている。面積ではなく、個人で行う個人的な家庭菜園は農業と呼ばず、不適切な野焼きになる。
会長	言葉を変えるのはどうか。「農業従事者以外の」などはどうか。
事務局	「違法な」などはどうか。
会長	いいように思う。
事務局	この件に関しては検討する。
委員	35 pあたりの検討中の場所の、「歴史的な資料館」などが出てくるが、地域的なものを挙げるとすれば、現状のように 3 か所のみクローズアップして挙げるのではなく、各地域ですべてのものを挙げるのはどうか。
会長	地域別というのは画期的な活動になりえると考えている。今回の基本計画の目玉になりえると考えている。「こういうことをしたい」という意見があれば、ぜひこの場で挙げていただきたい。
委員	地域別が 6 か所に分けてある。それとは別に 14 に分けられているコミュニティというものがある。提案として、今後はこのコミュニティ別に環境を考えていけるようにするのはどうか。37 pに「ニュータウンのうち...ニュータウンの高齢化が進み...」とあるが、現状は萩原台では住宅の出入りが多く、新しい住宅を建設しているような状況である。一方、湯山台はかなり高齢化が進んでいる。したがって、ここにかかっているような表現でひとくくりにするのは適切でないように感じる。
委員	24 pに水辺の生態系について外来生物の駆除について取り上げてあるが、外来生物は水辺のみの問題ではない。今問題になっているのは、アライグマの農業被害や、特定外来生物に指定されているオオキンケイギクやナルトサワギクなどがある。水辺だけというわけではなく、全体に関わってくる話だと思う。
会長	里山でシカの害などの話についての記述もあるが、その対策について記述されていない。里山の保全についての具体的な取り組みについての記述を見ると、ボランティア団体との連携を強化し、住民の理解を得ながら自然環境の保全に努め、人材の育成を推進します、という記述がある。ここにおいて、市は何を行うのかが不明である。市の体制がわかるような記述に変更してはどうか。
委員	22 pで、環境施策と環境配慮指針が記述されていて、この 2 つの項目は非常に大切なものだと思う。しかし、4 p計画の役割と位置づけにこの 2 つの項目が出てこないため、唐突な感じがする。条例の位置づけと同様に、この項目の説明をしてはどうか。
委託業者	22 pより前にこの項目の位置づけの説明を入れるようにする。
会長	4 pの計画の対象範囲という場所に、より詳しい説明文が欲しい。前

	<p>回の計画では、4つの「環境」であったのが、今回5つになっていることから、どういった経緯で5つに増えたのか、などの説明があったほうが良いと思う。</p> <p>また、主な対象ということで、資料後方にある、「現状」と対応しているようだが、唐突感がある。ここにも説明文が欲しい。</p>
委員	<p>23pの環境配慮指針に「安易なマイカー利用を控え、公共交通機関の利用を..」という記述があるが、この通りだとは思いますが、川西市は自転車で走ることが危険な場所も多い。公共交通機関の利用も必要だと思いが、高齢者が多い場所などもあり、自転車を推奨していくのは、むしろ危険なこともあると考える。ここに「自転車利用を促進」と記述するのはどうかと思う。</p>
委託業者	<p>市の自転車施策との整合性も考え、今後検討を行うようにする。</p>
委員	<p>現在、河川環境の変化の原因は住環境の変化が大きいと考える。小学校の自然学習でも身近な自然体験学習を行ってきたが、現在はその場所もなくなってきている。川西市は里山と猪名川がその対象になりやすいと思う。実際に、学校校歌の多くに猪名川のことが歌われている。しかし、子供がこのあたりで自然と触れ合う機会があまりにも少ないと思う。教員も忙しいかもしれないが、やはり子供が自然と直に触れ合うと感動するようである。今後の川西を担う世代にとって、自然学習を大いに推進すべきだと思える。環境保全を行うためには、まず知ることが重要だと思える。せっかく川西市には素晴らしい場所があるため、まずは、市民に素晴らしい自然を知ってもらうのが環境保全の第一歩だと思える。</p>
委員	<p>全体的に表を使っているが、若干説明不足のように感じる。加えて、4章と5章にまだ検討中の箇所がある。先に地域別のところを、現状のように6個に分けるか、コミュニティごとに分けるか先に決めておかないと次に進めないと思う。</p>
会長	<p>できるだけ細かく分けるほうが良いとは思いますが、その分難易度が増すだろう。まずは、現状の6個に分けて議論するのがよいように感じている。現状の6個に分けて考えること自体、前回の計画と比較して画期的なように思う。</p>
委員	<p>地域別の地名を記述する際に、「黒川『など』」の「など」はいらないように思う。「など」に分類される地区の人にとっては好ましく思われまいだろう。この表記はなくしてはどうか。</p> <p>猪名川が中心になり、この川西市はあるため、アユやホタルの取り組みにおいては、猪名川の漁業組合等が中心となって行っているため、調査し、この計画に取り込むのが良いと思う。</p> <p>7pの水質についてであるが、BODが1997年あたりから環境基準を下回っていて、魚が生息しにくいという原因について、学術的なことでわかっていることはあるのか。川西の上流に多少ある工場など</p>

	が影響しているのか。
委託業者	BOD は低減するほうがよい基準である。BOD が減っていると水質はよくなっているということだ。
委員	BOD がよくなっても、水生生物が減っていつているということか。
委託業者	水質自体はよくなっているが、外来種の増加や護岸工事がなされたり等、生育環境の変化が原因だと考えられる。
委員	そういうことであれば、指針のなかに、「河川の3面張りをやめる」というような指針ができるのでは、と考える。 里山の台場クヌギ等が川西市にとっては重要なものであると認識している。全国的にめずらしい実際の炭焼きを行っている実態があることから、歴史文化環境の項目内でより大きく取り上げたらいいのではないか。
会長	絵やグラフの比率が多いように感じる。文章を増やし、説明を多くするといいたいように思う。
委員	川西市には16万人の人口がいるが、昔から川西にずっと住んでいるひとは少ない。行政が市のこと強くPRしていかないといけない。現在の自然環境と、どのように自然環境が変化しているかをもう少し具体的に追及しなければ、取組ができない。森林なども崩壊しているし、河川も里山も今後は危ないという現状があるのに、この中には表現されていない。行政の各担当者が現状をわかっているはず。それぞれが具体的に書かないと、何を取り組んでいけばよいかかわからない。川西市の中には自然団体など、多数あり、取り組んでいる人が多数いる。そういう人々の生の声を吸い取っていかないと、この計画が問題の解決にはならず、ただの文章になっている。
会長	現況には表面的なことしか書かれていないという意見ですね。ページ数にこだわらず、自然環境へのこだわりや現場の声をもう少し書いてもよいかもしれない。
委員	進行管理について。進行管理をしっかり行う体制を作してほしい。
委員	前回の審議会でアンケートから、現状の川西市を知るために、教科書的なものを作ってほしいという意見が出ていたかと思うが、どう教育をすればよいか、わからないという教育者のニーズに答えていくべきだと思う。
事務局	現在、実効性のある計画をつくるために、どうすればよいか模索中である。その中で、第4章、5章がとても大きな役割を占めていると考えている。今後、計画ができたら、この計画を生かし、どのようにして計画を実行性のあるものにし、成果を上げていくかということを考えていく。4章の中で、何が必要か、というのを明らかにしたい。具体的に、どうするかという方向性はまだないが、実効性のあるものにしたい。

	<p>地区別の取り組みで、コミュニティ単位で取り組むのはどうか、という意見があったが、これについては総合計画が6ブロックにわかれていることもあり、それに沿って環境基本計画も6ブロックにしたほうが分かりやすいであろうということがあり、6つに分けている。コミュニティとどう連携を取っていくかについては今後の課題としておく。基本的には素案に載っているような6ブロックに分ける方向性でいく。</p>
委員	<p>42pの地球環境について、「循環型社会の形成」とあるが、そのことが他のページでは「省資源・リサイクル」にまとめられている。法律などでは「循環型社会の形成」という文言に統一してはどうか。</p>
委員	<p>地域別計画の中についてだが、新名神高速道路の建設に伴い、畦野の農地が大きく変わる計画ある。その農地について、この計画との整合性をとっていく必要がある。</p>
会長	<p>これで今回の審議会を終わります。</p>
事務局	<p>次回は9月の下旬を予定している。</p>